

## 症例 1

### 顎関節症とジルコニアセラミッククラウンのケース

#### 治療前



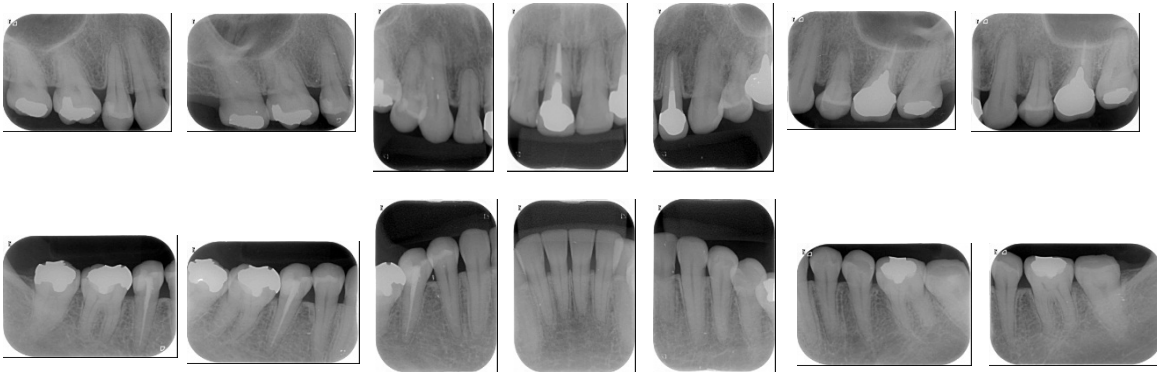
#### 治療後



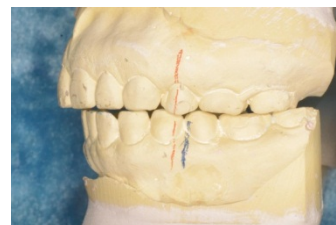
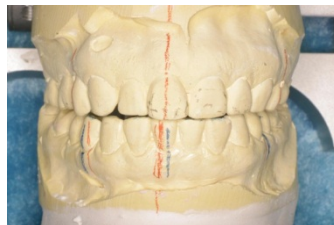
#### 診査

患者さんは、常に左側の歯、顎関節、筋肉の痛み悩まされている





本来の顎の位置では、左側の一番奥の上下1歯しか咬んでいない



普通の楽な位置で咬んでもらうと、

本来の顎の位置から右側へ2mm、前方へ2mmずれたこの位置で咬む





顎関節の治療のため、マウスピースを製作してお口に装着

2週間使用で、最大41mmしか開かなかった顎が52mmまで開くようになり、

顎関節、筋肉の痛みも取れてきた



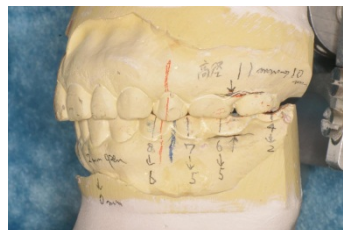
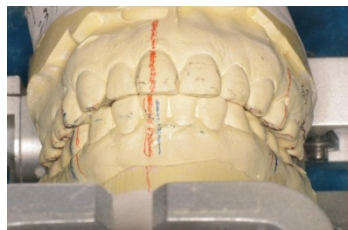
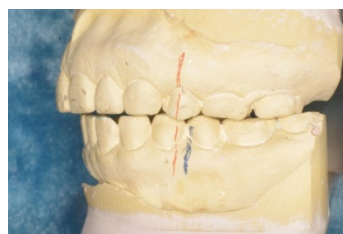
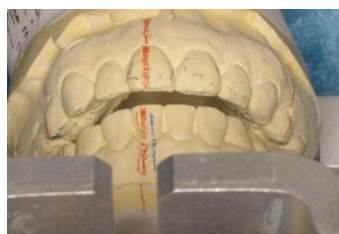
口の中で直接、咬み合わせの微調整だけで済むのかどうか、

模型上で歯を削ってみてシミュレーションをする。

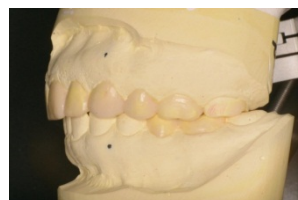
結果、奥歯を2mm近く削らないとバランスが取れず、

咬み合わせの微調整だけでは無理であることがわかる。

全顎的に歯を治療して咬み合わせを整えることが必要と診断



そこで、最終的な歯の形や並びをイメージするため、診断用ワックスアップをする



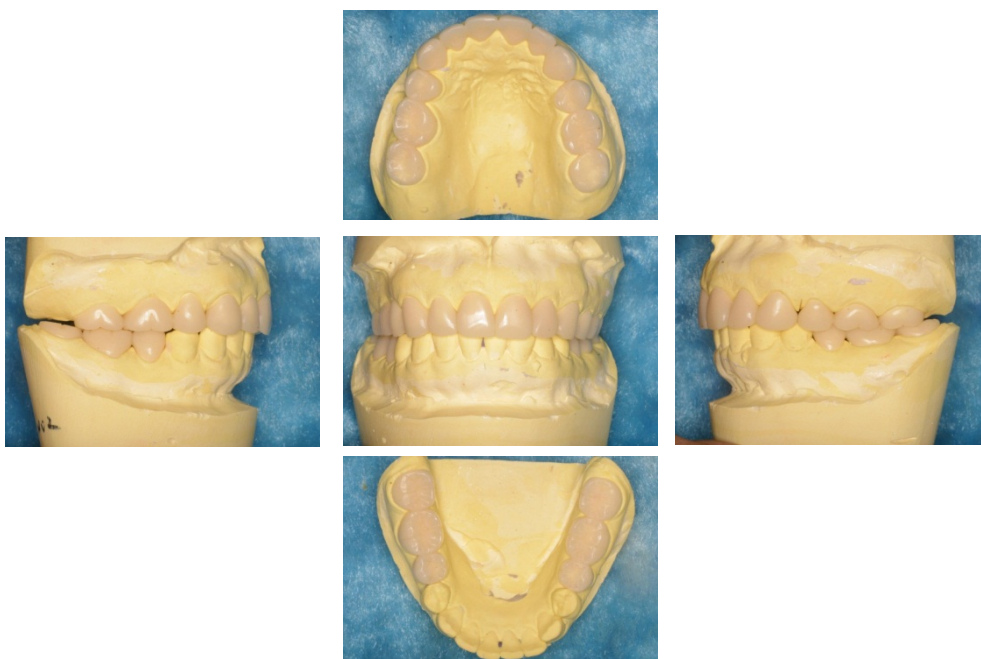
このイメージをもとに、口の中で順番にブロック毎に仮歯へ替えていく



良い形の仮歯を技工士さんに製作してもらうために、上下の歯型を取る



理想的な形の仮歯の完成



お口の中に仮歯を装着

数か月ほど、みがき易さ、咬み合わせなどチェック調整をし、最終的な歯の形並びを煮詰めていく



最終の歯を製作

精密に型を取るため、2重圧排法（細い糸を歯肉に2段階に入れ、歯肉を開き境界を明瞭にする）

シリコンラバー印象（歯肉奥深くきれいに入り、変形しない）





ジルコニアフレームにセラミックを加工したクラウンの仮仕上げ



お口の中に試適し、再度咬み合わせのチェック



ジルコニアセラミッククラウンの完成



1 個 1 個、単冠仕上げ



お口の中に装着

